**「だれでも高ぶる者は低くされ**

**へりくだる者は高められる」**

**年間第22主日・C年（16.8.23）**

　今日の福音は、ルカによる福音からとられておりますが、実は、マタイによる福音の11章には、イエスのおことばの記録集からの次のような引用箇所が挿入されております。

　**「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」（マタイ11.29）**

つまり、イエスの切なる願いは、何よりもまず、謙遜をイエスご自身から学んで欲しいということではないでしょうか。

　ですから、今日の福音では、イエスが、ファリサイ派の議員の家での食卓を囲む場面を目の当たりにしたとき、次のような具体的なたとえを語られたのであります。

　**「招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。そうすると招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。」（あなたに栄光があるだろう）**ここまでのお言葉は、何か処世術を教えておられるようにも受け止められますが、その後に念を押された**「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」**との宣言によって、イエスが語ろうとしてことの真意が明確になります。すなわち、イエスが教えてくださる謙遜の道は、単なるこの世での立ち振る舞いのコツを教えることではなく、あくまでも、神のみ前でどのようにふるまうべきかの、まさに信仰に根差した生き方の基本を教えてくださったと言えましょう。つまり、高ぶる者は、神によって低められ、一方、自らへりくだる者は、神ご自身によって高められるのであります。

　このキリスト者の生き方の基本は、イエスご自身の生き方によって見事に示されたと初代教会で歌われていた、次のような賛美歌を、パウロは、フィリピの教会の信者たちを戒めるた、めに次のようにしたためております。

　**「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに**

**しようとはせず、かえって自分を無にして、**

**の身分となり、人間と同じようになられました。**

**その姿はまさしく人間であり、**

**死に至るまで、それも十字架の死に至るまで、**

**へりくだって従う者となられました。**

**、神はこの上なくこの方を高め、**

**すべての名に勝る名を惜しみなくお与えになりました。」（フィリピ2.6-9）**

**主は、へりくだる人によってあがめられる**

　ちなみに、今日の第一朗読では、シラ書の次のような箇所を引用して、謙遜によってこそ神が賛美されることを強調しております。

　**「偉くなればなるほど、自らへりくだれ。**

**そうすれば、主は喜んで受け入れてくださる。**

**主の威光は壮大。**

**主はへりくだる人によってあがめられる。」**と。

**誰に優先的に奉仕すべきか**

ところで、仙台教区は、東日本大震災とフクシマ第一原発事故によって、まさに奉仕をとおして宣教する教会に変身させられたと言えましょう。

　つまり、内輪向きの閉鎖集団から、地域に開かれた教会になりつつあると言えるのではないでしょうか。

　そこで、被災地の復興に奉仕するまたとない機会が与えられておりますが、それは、教会の本来の使命である福音宣教活動の一環にほかなりません。

　ちなみに、教会の宣教活動の方向付けを、教皇フランシスコは、その使徒的勧告『福音の喜び』で、次のように勧告しておられます。

　**「教会全体がこの宣教の推進力を全面的に受け止めるので、教会は例外なくすべての人のもとに出向いて行くべきです。しかし、誰をまず優先すべきでしょうか。福音書の中に、非常に明確な指針が示されています。つまり、友人や近隣の金持ちではなく、むしろ貧しい人や病人です。彼らは**

**大抵いて、『お返しが出来ない』（ルカ14.14）人々です。このあまりにも明確なメッセージを弱めるような、疑問や弁明の余地はありません。**

**も、そしていつも、『貧しい人々こそ、特権的な福音の受け取り手にほかなりません。』見返りを求めることなく福音を彼らに伝えることは、イエスによってもたらされた神の国のしるしにほかなりません。・・・わたしたちの信仰と貧しい人々との間には、切っても切れない密接なきずながあるのです。決して彼らを見捨ててはいけません」（48項）**

　今週もまた、へりくだった奉仕をとおして、出会う一人ひとりに福音の告げ知らせることができるように共に祈りましょう。